

施策No.	政策名	安心と安らぎのある健康福祉社会づくり	主管課	健康推進課
207	施策名	地域医療制度の充実	関係課	国保年金課、病院整備推進室

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
・市民 ・市内医療機関(病院・一般診療所・歯科診療所)	①桜川市人口	人	見込値	/	/	45,122	44,571	44,020	43,190	42,571	41,952
			実績値	46,575	45,673	45,105	44,449	43,826	43,190	42,444	
	②市内医療機関数(病院・一般診療所・歯科診療所)	箇所	見込値	/	/	48	48	48	47	46	46
			実績値	48	48	48	48	48	47	47	
			見込値	/	/						
			実績値								
施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
必要な時に安心した医療を受けることができる	①地域(市内及び近隣地域)で適切な医療が受けられていると答えた市民の割合	%	目標値	/	/	52.0	53.5	55.0	56.5	58.0	60.0
			実績値	58.0	49.4	42.8	47.7	43.8	40.1	41.2	
	②持病があり、定期的に医療機関に通っていると答えた市民の割合	%	目標値	/	/	38.0	38.4	38.8	39.2	39.6	40.0
			実績値	36.0	38.2	37.5	39.2	43.0	38.9	40.1	
			目標値	/	/						
			実績値								
成果指標設定の考え方	○必要な時に安心した医療を受けることができることについての指標は、市民アンケート①「地域(市内及び近隣地域)で適切な医療が受けられていると答えた市民の割合」が増えること、②「持病があり、定期的に医療機関に通っていると答えた市民の割合」(かかりつけ医をもっていることにつながる)により求める										
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○「地域(市内及び近隣地域)で適切な医療が受けられていると答えた市民の割合」「持病があり、定期的に医療機関に通っていると答えた市民の割合」はアンケート調査										

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○同じ症状で複数の病院を受診(多受診)しないようにする。 ○国民健康保険制度を正しく理解し、保険料(料)を遅延なく納付する。 ○かかりつけ医をもって医療の適正受診に努める。	○地域医療体制の充実に努める。 ○各制度の内容を広く市民に啓発し、医療費の適正化と収納率の向上に努める。 ○医療機関相互の連携による効率的な医療を提供する。(医療機関)
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○高齢者医療費がかさむため、市・市民の負担もさらに増大する。人口減少により、開業医の経営も困難になると考えられる。先々は医療をうけることも困難になる可能性もある。 ○高度医療機関の整備が進むことにより、医療体制の充実が期待される。 ○市内に産科がない。近隣の自治体に行くしかない状態。 ○景気低迷により、国保の収納率の低下の恐れがある。 ○健康増進計画の見直し(H25)(医療体制、かかりつけ医) ○筑西市と桜川市で検討を重ねた結果、県西総合病院及び筑西市民病院・山王病院の3病院を再編統合し、筑西市内に新中核病院を、桜川市内に新たな市立病院を整備することになり、場所は高森地区に決定した。平成27年6月の第2回桜川市議会定例会で平成27年度一般会計補正予算(第3号)により市立病院整備事業費28,310千円が可決された。	・市民アンケートの優先度、満足度調査の結果、優先度が非常に高く、満足度は低くなっている。 ・市内の病院の診療科目(産科・脳外科等)が少なく心配だという意見がある。 ・保険料が高いという意見がある。(医療にかからないと実感できない部分がある。)

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 地域医療体制の充実	市民、医療機関	必要な時に安心した医療を受けることができる	地域(市内及び近隣地域)で適切な医療が受けられていると答えた市民の割合	実績値	49.4	42.8	47.7	43.8	40.1	41.2	
				%							
② 医療保険制度の充実	市民(被保険者)、医療機関	医療保険制度が適正に運営される	・1人当たりの医療給付費(国保分) ・国民健康保険税収納率	実績値	207,986	217,840	224,156	221,543	237,059	263,473	
				円							
				実績値	87.95	89.71	89.84	91.22	91.34	91.86	
				%							
				実績値							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	22	22	20
②施策事業費(一般財源以外)	千円	4,458,838	3,764,978	3,940,125
③施策事業費(一般財源)	千円	3,190,333	2,154,825	2,275,304
④施策事業費の計(②+③)	千円	7,649,171	5,919,803	6,215,429
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	76,656	88,395	88,133
⑥計(④+⑤)	千円	7,725,827	6,008,198	6,303,562

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
関連する事務事業	地域医療対策事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
事務事業	収納率向上対策事業	H27貢献度上位
事務事業	国民健康保険資格給付適正化事務	H27貢献度上位
事務事業	人間ドック・脳併用ドック健診助成事業	H27貢献度上位
事業事業	桜川市立病院整備事業	H28優先度上位

施策番号	207	施策名	地域医療制度の充実	主管課	健康推進課
------	-----	-----	-----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)					
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した			
背景・要因	<p>・適切な医療が受けられていると感じている市民は、H21年度58.0%と高いが、H19年度48.5%、H20年度は51.1、H22年度49.4%、H23年度42.8%、H24年度47.7%、H25年度43.8%、H26年度40.1%、H27年度41.2%とH21年度を最高に多少の変動はあるが、最近では5割に満たない状況にある。これは、地域医療体制への不安、市内脳外科、産科の設置が無いのが不便との声も聴かれる。</p> <p>・持病があり、定期的に医療機関に通っていると答えた市民の割合は、H21年度36.0%、H22年度38.2%、H23年度37.5%、H24年度39.2%、H25年度43.0%、H26年度38.9%、H27年度40.1%で横ばい状況にある。これは病気(高血圧性疾患や糖尿病等)の重症化を防止するために、定期的にかかりつけ医等へ受診している市民の割合が高いものと思われる。</p>				
1)-②成果目標の達成状況					
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った		
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った		
背景・要因	<p>・地域(市内及び近隣地域)で適切な医療が受けられていると答えた市民の割合は、H27年度の目標値58.0%を16.8ポイント下回り41.2%となっている。</p> <p>・持病があり、定期的に医療機関に通っていると答えた市民の割合は、H27年度の目標値39.6%に対し、40.1パーセントと0.5ポイント上回った。</p>				
2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)					
実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である		
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である			
背景・要因	<p>市内にある医療機関は病院が、県西総合病院、山王病院、上の原病院の3ヶ所と市内の医療施設(医院等)は、岩瀬地区が4ヶ所、大和地区が2ヶ所、真壁地区が8ヶ所で、計14ヶ所があり、医師数は、病院で28人、医療施設で14人で計42人の状況にある。茨城県平均と当市の医療状況を、人口10万人当たりの数値で比較すると、病院数では、県平均5.5ヶ所、当市は6.7ヶ所で、上回っている。医療施設数は、県平均58.9ヶ所、当市47.9ヶ所で下回っている。医師数は、県平均175.7人、当市94.2人と大きく下回っているため、他の自治体よりかなり低い水準であるとした。</p>				
3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?					
実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である		
	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である			
背景・特徴	<p>・桜川市行政評価「市民アンケート」によると、地域(市内及び近隣地域)で適切な医療を受けられていますか?の問いに対して「そう思う」が7.4%「ややそう思う」が33.8%で合計41.2%となり、前年のアンケート40.1%より1.1ポイント上回っているが、依然として5割を切っている状態である。</p>				

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>貢献度評価において、平成27年度は「市民・医療施設」を重点対象に「かかりつけ医を持つ」「夜間・休日診療が受けられる」「医療費を抑える」「収納率を向上させる」ことを重点的に取り組んだ。</p> <p>貢献した事務事業は、「地域医療対策事業」「収納率向上対策事業」「人間ドック・脳併用ドック健診助成事業」「国民健康保険資格給付適正化事務」であった。</p> <p>・「地域医療対策事業」は真壁医師会桜川支部に登録している16医療機関に、休日診療を年間72日当番制で行った。受診件数は内科581件、外科19件、小児科332件、その他42件であった。</p> <p>・「収納率向上対策事業」は、国保財政の安定化による適切な医療給付のため、口座振替の推進、滞納処分、年5回の短期保険証交付における納税相談や色封筒による催告書発送による納税意識の向上を図ったことから、徴収率が現年度91.86%になり昨年から0.52ポイント向上することができた。</p> <p>・「人間ドック・脳併用ドック健診助成事業」は、国民健康保険被保険者の健康の保持増進と疾病の予防、早期発見及び早期治療による重症化予防が医療費を抑制し、国民健康保険事業の健全運営に寄与するものであることから、30歳以上75歳未満の被保険者を対象に人間ドック等健診費の助成を実施した。(人間ドック527人・脳併用ドック126人)</p> <p>・「国民健康保険資格給付適正化事務」は、診療報酬明細書の資格点検及び内容点検を実施することにより適正給付に努めた。また、国民健康保険の保険証で国保資格喪失後に医療機関等を受診した方への返納金の請求や第三者行為に係る納付金の求償に努めた。</p>
-------------	--

8. 総合計画後期基本計画(H24～)の振り返り

区分	これまでの取組成果	今後の課題(未着手の事業、未達成の理由など)	今後の方針
施策全体	<p>・県西病院では、幅広く適切な医療が受けられるよう医師確保に努めている。</p> <p>・国保税の滞納者・滞納額は年々増加してきており、収納率向上対策事業の中で納税相談・電話催促・財産調査・差押等を行い、納付に対する不公平感を取り除きながら、国保事業の健全化を図っている。</p>	<p>・救急医療体制や医師の不足といった市民の不安がある。</p> <p>・高齢化に伴う医療費の増加等により、国民健康保険制度及び高齢者医療保険制度は厳しい財政状況にある。</p>	<p>・救急医療体制や医師の不足といった市民の不安に応えるため、地域医療体制の充実に努めます。</p> <p>・財政基盤の安定化を図り安心して医療を受けられる体制づくりをすすめます。</p>
基本事業	①地域医療体制の充実	<p>・地域で適切な医療が受けられるよう医療体制の充実が求められている。</p> <p>また、現県西総合病院の経営状況が年々悪化していることから、病院の経営改善の取組や経営形態の変更など抜本的な改革改善の取組が求められている。</p> <p>休日当番医療機関については、市医師会との協力体制が不可欠であり、今後も円滑な連携が必要である。</p>	<p>救急医療を受けられる体制の整備に努め、救急医療の適切な利用の普及啓発と気軽に相談できる、かかりつけ医を持てるよう努めます。</p> <p>桜川市における持続可能な医療提供体制を確保することを念頭に、必要な地域医療のあり方、地域医療連携など国の動向や将来の医療需要にも留意し、新病院整備を推進する。歳出削減のため、財政・総務・職員・企画を中心に全庁的な取組を実施します。</p>
	②医療保険制度の充実	<p>医療給付費の適正化を図るために、レセプト・資格内容の点検や第三者行為による求償事務の強化を行うとともに、医療給付費の伸びを抑えるために、特定健康診査事業や人間ドック・脳併用ドック助成助成等、健康づくりの推進に取り組んできた。</p> <p>また、財源確保のためにも国保税の収納率向上に取り組み平成22年度87.95%から、平成27年度は91.86%で3.91%向上することができた。</p>	<p>・医療給付費は増加していることから、特定健診や健康づくりの推進などと連携をさらに強化し、医療給付費の伸びを抑えることが必要である。</p> <p>・納付に対する不公平感を助長させないため、適正な滞納整理を実施し、収納率の向上への取組強化が必要である。</p> <p>疾病の早期発見・早期治療に効果が期待できる特定健診の受診率向上に取り組む、医療費の適正化に努める。また、保険基盤のより一層の安定化に向け、保険税(料)の収納率向上に努める。</p>